

男女共同参画と人権の視点を取り入れた

みんなで取り組む

防災ハンドブック



玉野市

もくじ

はじめに

①これまでの災害ではどんなことが起こったの？ 1

- 女性に起こったこと
- 妊婦や子ども連れに起こったこと
- 男性に起こったこと
- 固定的な役割分担意識によってもたらされたもの
- 高齢者に起こったこと
- 障がいのある人に起こったこと
- 外国人に起こったこと
- 性的少数者に起こったこと
- 女性や子どもへの性被害やDVが増えることも
～玉野市男女共同参画に関するアンケート調査の結果～

②避難所運営ではみんなで協力しよう！ 5

③みんなが快適に過ごせる避難所を考えてみよう！ 7

- 避難所の運営
- 役割分担の見直し
- 避難所の環境整備
- 物資の供給
- 配慮が必要な人へ
- 人とのつながり
- 女性や子どもの安全の確保
- 相談窓口

④日頃から備えよう！ 11

- 非常用持ち出しバッグ チェックリスト
- 自宅での備え
- 避難場所の確認
- 安否確認の方法

はじめに

この防災ハンドブックは、災害時にすべての人が共に助け合うために、男女共同参画や人権の視点に基づいた防災体制を考えるために作成しました。

東日本大震災や熊本地震などの過去の災害の教訓から、災害発生時の対応では、男女共同参画や人権への配慮の視点が必要だと言われています。

みなさんのお住いの地域にも、乳幼児、妊産婦、高齢者、障害のある人、外国人、性的少数者など、普段から配慮の必要な人が暮らしていますが、災害時には特に、配慮が必要となります。

また、女性と男性では物資や環境のニーズに違いがあったり、受ける影響なども異なります。これまでの災害では、避難所の責任者に女性が少ないため、女性の意見や要望が届きにくいといった問題や、性別によって役割が固定された結果、一方だけに負担がかかってしまうといった問題がありました。

災害時には、「すべての人が共に助け合い、責任を分かち合う」という視点が必要となります。

災害が発生した場合をイメージし、過去の災害で起こったこと、望ましい避難所の在り方について考えてみましょう。

①これまでの災害ではどんなことが起こったの？

災害発生時には、女性や子ども、高齢者や障がいを持った人など、普段から弱い立場にある人が特に影響を受けやすくなると言われています。

女性に起こったこと

- ・下着や生理用品がない
- ・女性用品を男性が配布するなど、物資を受け取りにくい
- ・間仕切りや女性用更衣室がない
- ・女性専用の洗濯物干し場がない
- ・女性用のトイレがない



「性別によって、必要な物資や設備に違いがあるね。」
「女性も避難所運営に積極的に参加して、声をあげることが大切だね。」



妊婦や子ども連れに起こったこと

- ・妊娠中の体の状態を理解、配慮してもらえない
- ・思いやりのない発言や配慮のなさによる居心地の悪さ
- ・授乳室やオムツを替えるスペースがない
- ・ミルクや離乳食がない
- ・妊婦なのに水をもらうのに何時間も並んだ



「避難所では、思いやりや『お互い様』という気持ちが大切だね。」



男性に起こったこと

- ・避難所において、一部の男性に過度な責任が集中した
- ・復旧作業や人手不足のために会社での泊まり込みや長時間労働が発生し、家庭よりも仕事優先を余儀なくされた
- ・「男性はこうあるべき」という固定観念に縛られ、弱音をはいたり、愚痴を言ったりできなかった
- ・新たなコミュニティに入ることができず、引きこもりや孤立、孤独死が起こった



「男性だけに避難所運営を任せるのではなくて、男女が共に責任を分かち合うことが大切だね。」

固定的な役割分担意識によってもたらされたもの



- ・避難所運営の責任者やがれき処理などの力仕事は男性に集中し、心身を疲労させた
- ・炊き出し、後片付け、掃除や子ども・高齢者の世話などは女性に集中し、休むことができず疲弊した

「性別にかかわらず、自分の適性に合った役割を担えるようにすることが大切だね。」



高齢者に起こったこと

- ・一人暮らしの高齢者は、情報が届かない、頼る人が身近にいないことから、避難できなかった
- ・要支援の高齢者は、自力で避難所に行けず、自宅で孤立した
- ・避難所での生活が長期化し、持病が悪化した



「日頃からの地域のつながりや、支援の仕組みづくりが大切だね。」

障がいのある人に起こったこと



- ・避難所へ行ったが、段差があり車いすで入れなかった
- ・視覚や聴覚に障害があり、テレビやラジオなどでの情報が得にくかった
- ・プライバシーのない大勢の人がいる避難所でパニックを起こした

「障がいの種類や程度に合わせて、必要な支援を考えることが大切だね。」



外国人に起こったこと

- ・避難所の存在や、救援物資が配布されることを知らなかった
- ・宗教や文化の違いのため、避難所での食べ物に困った
- ・避難所の掲示板情報の日本語が難しく、理解できなかった



「日頃からの災害時の情報提供や『かんたんな日本語』を使って伝えることが大切だね。」



性的少数者に起こったこと

- ・女性専用、男性専用のトイレや更衣室はあるのに、性別に関係なく使えるトイレや更衣室がなくて使いづらい
- ・同性カップルで避難所の同じ区画に入りづらい

「だれでも使えるトイレや更衣室を整備したり、性の多様性を認めることが大切だね。」



女性や子どもへの性被害やDVが増えることも

- ・支援をする見返りとして、性的な行為を要求される
- ・トイレ等が暗い場所にあり、そこで暴力を受ける
- ・見知らぬ男性が知らない間に隣に寝てきて、体を触られる
- ・DV（夫婦やパートナー間の暴力）が増加する



- 性暴力は、若い女性だけでなく、子どもや男性も被害にあうことがわかっています。
- 明かりの消えた夜間や、人気のない場所での犯罪が増える傾向にあります。

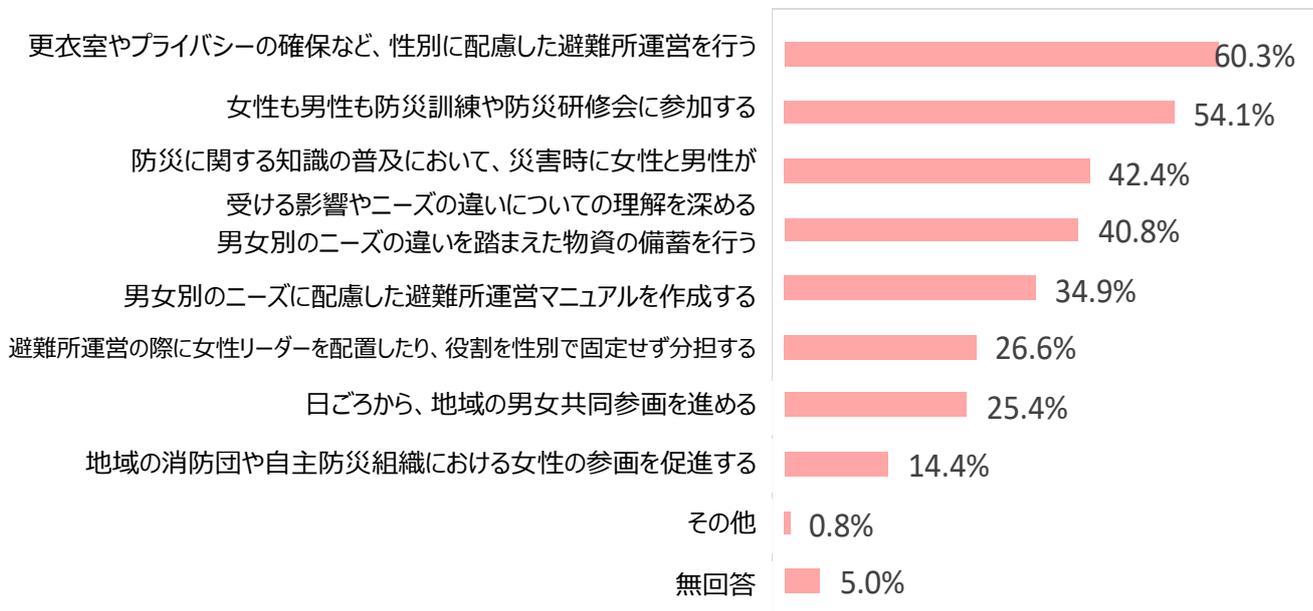
「被害が発生しないための取り組みや、万が一発生した場合に備えて、被害者が相談しやすい環境をつくるのが大切だね」



玉野市男女共同参画に関するアンケート調査の結果（令和2年10月実施）

Q 東日本大震災などの過去の災害の教訓から、平常時の防災体制や災害発生後の対応にも男女共同参画の視点が必要だと言われています。性別のちがいに配慮した防災・災害対応のためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答可）

- 1位 **更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営**を行う（60.3%）
- 2位 **女性も男性も防災訓練や防災研修会に参加**する（54.1%）



②避難所運営ではみんなで協力しよう！

大規模な地震、洪水、土砂災害等が発生した場合、避難所生活が長期化することが想定されます。みんなで協力し、1日も早く以前の生活に戻ることを目指しましょう。

- 避難所運営の主体は、**避難者全員**です。
- 避難者を中心とした「**避難所運営委員会**」で避難所を運営しましょう。



<避難所運営委員会の例>



- 避難所を運営する人はみんな被災者です。
特定の人に負担が集中しないよう、定期的に交代しましょう。
- 会長・副会長のどちらかは、女性から選出しましょう。
- 各運営班にも女性が積極的に参加しましょう。

「いろんな役割があるね。」



各運営班の役割

- 総務班・・・総合受付、避難所運営委員会の事務局、
災害対策本部との連絡調整
名簿係・・・名簿管理、利用者数の管理
- 連絡・広報班・・・避難所内外の情報収集、伝達、発信
- 食料・物資班・・・食料・物資の調達、受入れ、管理、配給、炊き出し
- 保健・衛生班・・・共有スペース、トイレなどの清掃、ごみの処理、健康管理
- 要配慮者支援班・・・高齢者、障がい者、疾患のある人、妊産婦、乳幼児、
外国人など、特に配慮すべき人の支援
- 施設管理班・・・施設・設備の点検、故障対応、防火・防犯対策
- 屋外支援班・・・避難所以外の場所にいる被災者の情報収集・伝達、
食料・物資の配給、健康管理
- ボランティア班・・・ボランティアの受入れ、管理



「僕たちにできることもあるよ！」

③ みんなが快適に過ごせる避難所を考えてみよう！

避難所にはいろんな立場、状況の人がいます。
みんなが安心して快適に過ごせる避難所運営
について考えてみましょう。



避難所の運営

問題点：避難所運営の責任者に女性が少ないことによって、女性の意見が反映されにくい状況があった



解決策：女性の意見を取り入れるために、避難所の運営に女性も積極的に参画する

- ☞ 避難所運営委員会の構成員を選出する際は、**女性が3割以上**となるようにする
- ☞ 避難所運営委員の中から**会長・副会長**を選出する際、**いずれかが女性**となるようにする
- ☞ 避難所での生活ルールを作る際は、男女の意見を反映させる



役割分担の見直し

問題点：男性は避難所運営の責任者やがれき処理、女性は炊き出しや子ども・高齢者の世話など、性別によって役割分担の偏りがあった



解決策：年齢や性別で役割分担を決めるのではなく、子どもから高齢者まで、より多くの人が運営に参加できるようにする

- ☞ 性別によらず、本人の希望を聞き役割分担する
- ☞ 特定の人に負担がかからないように、適宜交代する



避難所の環境整備

問題点：間仕切りや男女別の更衣室、女性専用の洗濯物干場がないなど、プライバシーが確保されていなかった



解決策：家族の形態によって世帯ごとのエリアを設ける、各スペースを男女別に分けるなど、プライバシーを確保する

- ☞ 高齢者、障がいのある人、妊産婦、乳幼児のいる世帯、病気を抱えている人、ひとり暮らしの女性など状況に応じて、プライバシーの十分確保された間仕切りにより、世帯ごとのエリアを設ける
- ☞ トイレ、洗濯物干し場、更衣室、休養スペース、お風呂を男女別に設ける、だれでも使えるトイレや個人で使える更衣室を設ける



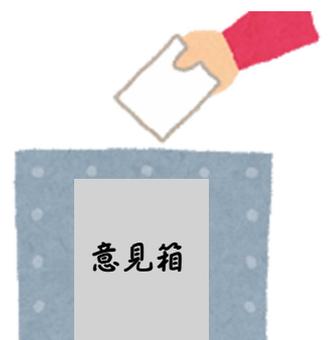
物資の供給

問題点：物資はあるが、配布している担当者が異性であり受け取りにくい、周りの目が気になり必要な物資の要望を言いにくいといった状況があった



解決策：同性の担当者が物資を配布する、必要な物資を要望しやすい環境を整備する

- ☞ 女性用品を配布する際は、女性が配布を担当する
- ☞ 女性トイレや女性専用スペースに、女性用品を常備する
- ☞ 男性の物資ニーズや受け取りやすい配布方法に配慮する
- ☞ 男女の多様な物資ニーズを把握するために、意見箱を設置する



配慮が必要な人へ

- ・妊婦や乳幼児のいる家庭、障がいのある人、高齢者などの要配慮者に対して、水や食料などの支給方法に配慮する
- ・乳幼児のいる家庭に配慮し、授乳室をつくる
- ・個室があれば、妊婦や乳幼児のいる家庭、介護や看護が必要な人、障がいのある人の家庭などに振り分ける
- ・視覚や聴覚に障がいのある人への情報の伝え方を配慮する
- ・外国人に対して、「かんたんな日本語」を使って情報を伝える
- ・宗教上の理由に関係なく食べられる食料を調達する
- ・性的少数者に配慮し、だれでも使えるトイレや個人で使える更衣室を設ける



人とのつながり

日ごろから・・・

- ・高齢者のみの世帯や単身世帯に声かけを行うなど、日ごろから地域とのつながりをもつ
- ・日本に住み慣れていない外国人に対して、災害発生時に開設される避難所の存在や、救援物資が配布される仕組みについて知ってもらう

避難所では・・・

- ・心のリフレッシュやストレス解消のため、だれでも利用できるおしゃべりスペースを設ける
- ・孤立している人がいたら、声かけをする
(本人が話したくない場合もあるので、無理強いしない)

女性や子どもの安全の確保

問題点：女性や子どもが性暴力の被害にあった



解決策：女性や子どもが被害にあわないための呼びかけや環境の整備、被害にあった場合の相談支援体制の整備を行う

- ☞ 夜間行動する際は、防犯ブザーを持ち、複数人で行動するよう呼びかける
- ☞ トイレ、更衣室は昼夜問わず安心して利用できる場所を選び、照明をつけるなど、安全に配慮する
- ☞ 女性専用スペースや女性用トイレに相談窓口案内カードを設置し、相談先の周知を行う
- ☞ 男女ペア、女性警察官などによる巡回を行う



相談窓口

● 女性のさまざまな悩み、配偶者からの暴力に関する相談

- ・玉野市男女共同参画相談支援センター
☎0863-33-7867 (月～金 (祝日・年末年始除く) 8時半～16時)
さんざん なやむな
- ・岡山県女性相談所
☎086-235-6060 (月～金 9時～16時半)
DV夜間電話相談 ☎086-235-6101 (月～金 16時半～20時)
- ・岡山県男女共同参画推進センター (ウイズセンター)
☎086-235-3310 (火～土 9時半～16時半)
- ・DV 休日電話相談
☎086-441-1899 (日・祝・年末年始 9時半～16時半)

● 性犯罪被害等に関する相談

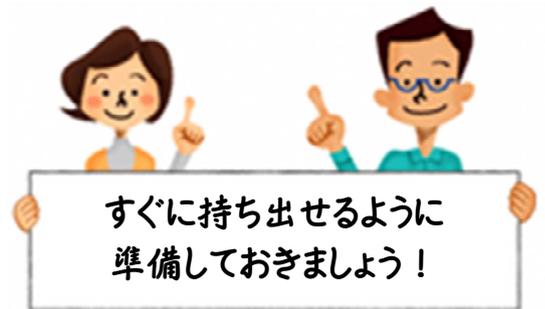
- ・性暴力被害者支援センター「おかやま心」(性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター) ☎086-206-7511 (月～土 10時～16時)
- ・警察庁性犯罪被害相談電話 全国共通電話 #8103 ハートさん

● 男性相談員による男性のための電話相談

- ・岡山県男女共同参画推進センター (ウイズセンター)
☎086-221-1270 (毎月第2金曜日 17時～20時)

④日ごろから備えよう！

災害時に必要なものは、年齢や性別、その人の置かれている状況によってちがいます。いざというときに困らないように、日ごろから備えておきましょう。



非常用持ち出しバッグ チェックリスト

共通

- 貴重品（現金、通帳（写し）、印鑑、健康保険証（写し）、免許証（写し）など）
- 携帯ラジオ（予備電池）
- 携帯電話（充電器・バッテリー ※できれば手動式のもの望ましい）
- 懐中電灯（予備電池）
- 防犯ブザー
- ホイッスル
- 応急医薬品（ばんそうこう、消毒薬、常備薬、マスク、体温計など）
- 飲料水（1人2～4リットル）
- 非常食（缶詰、栄養補助食品など）
- 衣類（下着、上着、くつしたなど）
- 生活用品（タオル、トイレトペーパー、ティッシュペーパー、ウェットティッシュ、歯ブラシ、メガネ、ビニール袋、ラップ、水筒、紙コップ、紙皿、割りばし、カイロ、ガムテープ、軍手）
- 寝袋、毛布
- _____
- _____
- _____
- _____
- _____



女性

- 生理用ナプキン、おりものシート
- サニタリーショーツ
- 下着
- 防犯ブザー、ホイッスル

高齢者、要介護者のいる家庭

- 介護保険証
- 常備薬
- お薬手帳
- 大人用紙おむつ
- おむつ用ビニール袋
- 尿取りパッド
- おしりふき
- 身体をふくシート
- 介護食
- 入れ歯、入れ歯洗浄剤
- メガネ
- 補聴器

子どものいる家庭

- 母子手帳
- 乳幼児用紙おむつ
- おむつ用ビニール袋
- 赤ちゃん用おしりふき
- 粉ミルク、液体ミルク
- 哺乳びん、哺乳びん消毒液
- 離乳食、アレルギー対応食
- 薬 お菓子
- 子どものお気に入りのおもちゃ
- 抱っこひも
- 授乳ケープ
- 皿、コップ、スプーン、フォーク

外国人

- スプーン、フォーク
- 宗教上の理由にかかわらず
食べられる食べ物

自宅での備え

大きな災害が発生して、電気やガス、水道などのライフラインの供給が止まった場合、支援が届くまでに3日ほどかかると言われています。各家庭でも食料や水、燃料や日用品などを備えておきましょう。

～ローリングストック法～



- ① 日常で使う食料品を多めに購入し、**備え**ておく
- ② 消費期限の近いものから**消費**する
- ③ 消費した分を**買い足し**、いつも一定量に保つ

ストック品の例

- ・食料品（アルファ米・レトルト食品・缶詰など）
- ・水（飲料と煮炊き分）
- ・燃料（カセットコンロ、ガスボンベ等）
- ・日用品（紙皿、紙コップ、割り箸、ラップ、アルミホイルなど）

避難場所の確認

災害の種類や規模、災害が起こったときにいる場所などによって、避難場所は変わってきます。ケースに合わせた避難場所を確認しておきましょう。

避難とは「難」を「避」けることであり、「避難所」に行くことではありません。状況に応じて、「在宅避難」、「車中泊」を選びましょう。

- ・家で被災した場合 _____
- ・学校や職場で被災した場合 _____
- ・地震災害の場合 _____
- ・台風災害の場合 _____



安否確認の方法

家族がばらばらにいるときに災害が発生した場合に備えて、安否確認の方法、集合場所などを決めておきましょう。その際、被災地域に電話が集中すると、回線がつながりにくくなり、消防や警察などの緊急連絡に支障が生じることがあります。

安否確認には、「災害用伝言ダイヤル」を利用しましょう。

「171」災害用伝言ダイヤルの利用方法

【メッセージを残す】

- ①「171」をダイヤル
- ②「1」を押し
- ③自宅(被災地)の電話番号をダイヤル
- ④メッセージを録音

【メッセージを聞く】

- ①「171」をダイヤル
- ②「2」を押し
- ③自宅(被災地)の電話番号をダイヤル
- ④メッセージを再生



「web171」災害用伝言板利用方法（スマートフォンの場合）

<https://www.web171.jp/> へアクセスし、事前の利用登録を行う。

※詳細は、NTT 西日本の HP をご確認ください。

【伝言を登録する】

- ①上記 URL へアクセス
- ②伝言の登録を行う電話番号を入力
- ③名前、安否、伝言を入力し、「登録」をクリック

【伝言を確認する】

- ①上記 URL へアクセス
- ②伝言の確認をする電話番号を入力
- ③「確認」をクリック



緊急連絡先

名 前

電話番号

携帯電話

住 所

名 前

電話番号

携帯電話

住 所

参考資料

- ・「災害対応力を強化する女性の視点～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～」
（内閣府男女共同参画局）
- ・「減災のてびき」 （内閣府）
- ・「こんな支援が欲しかった！～現場に学ぶ、女性と多様なニーズに配慮した災害支援事例集」
（減災と男女共同参画 研修推進センター）
- ・「熊本地震を経験した私たちが提案する 男女共同参画の視点に立った防災ポイント BOOK」
（熊本市男女共同参画センターはあもにい）

「男女共同参画と人権の視点を取り入れた みんなで取り組む 防災ハンドブック」

令和3年3月

発行：玉野市総務部総務課 人権・男女共同参画係

問合せ先：〒706-8510 岡山県玉野市宇野1丁目27番1号

電話：0863-32-5516 FAX：0863-21-3464